

44. 住居の3階層

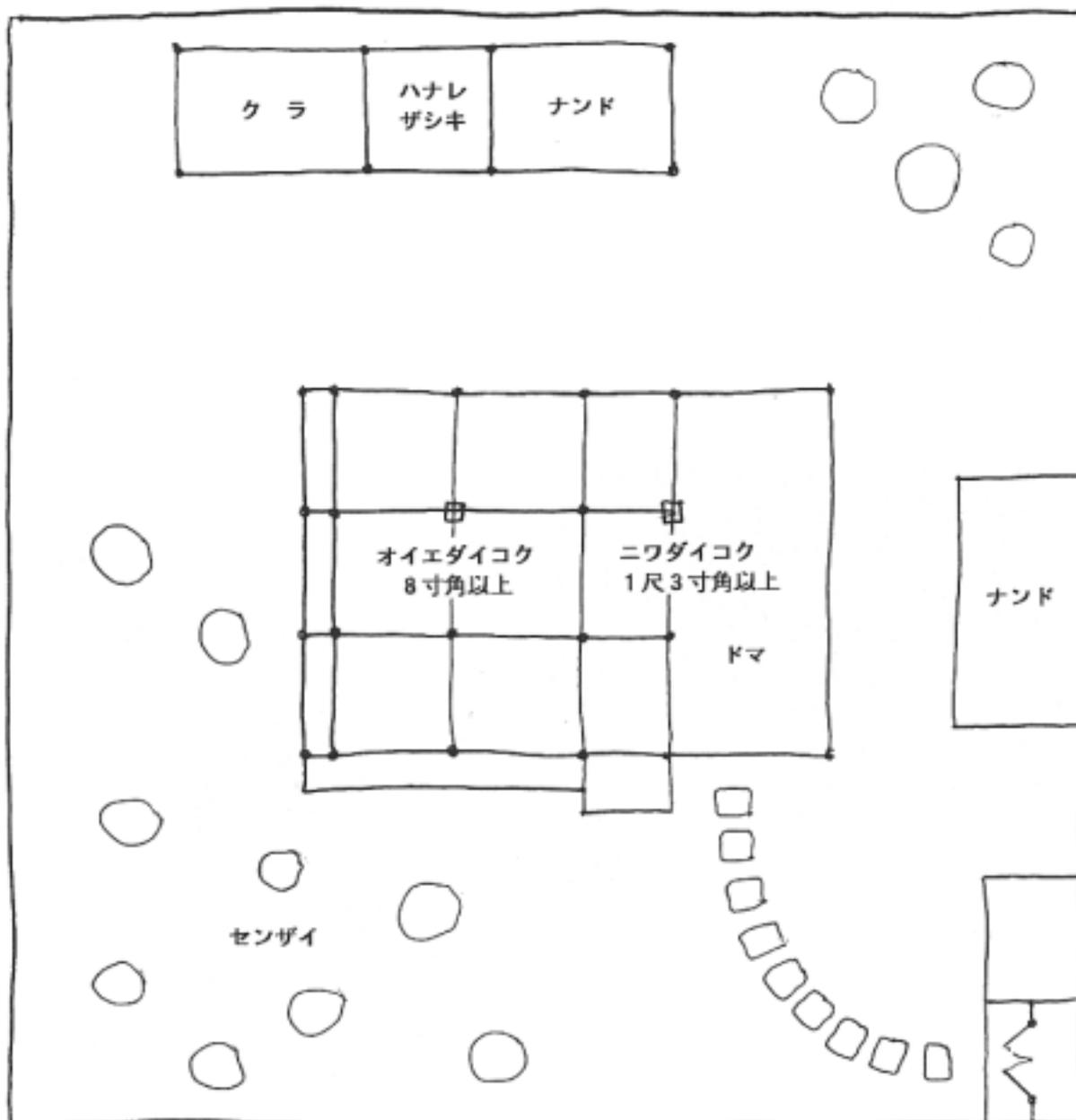
摂津市域は都市化が進んで、住居の建て替えが一巡した感じで、古い民家はあまり残っていない。鳥飼中の工務店のH氏から、市域のかつての民家の規模を聞いてみた。

3つの階層

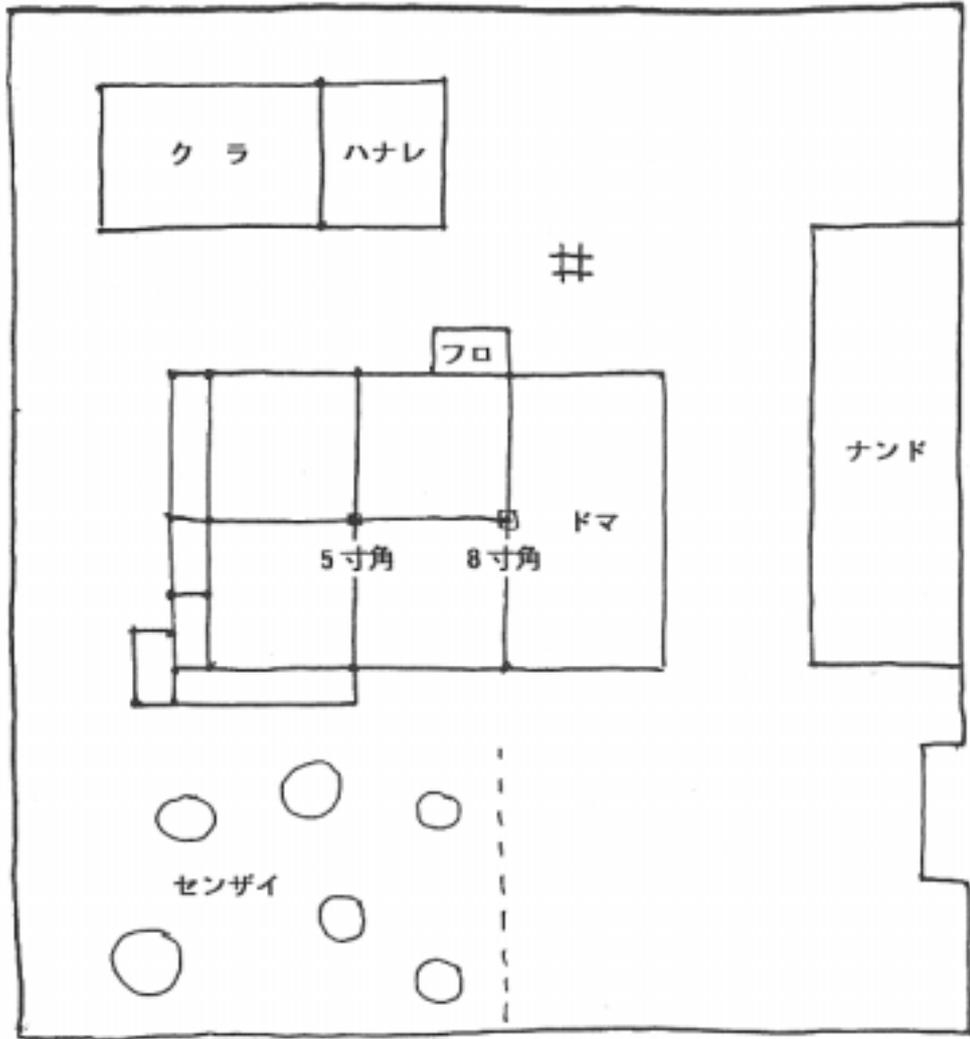
家は外に格式を示すもっとも目立つ看板である。したがって戦前のように地主・自作農・小作人の別がはっきりした社会では、その階層の違いが家の作りに現れていた。

まず敷地の広さが違う。つぎに門や塀の外回りの作りが違う。そして家の間取りの数が違った。Aは地主の家、Bは自作農の家、Cは小作の家のモデルである。

A



B



C

